

「浦和大学データサイエンス・AI 教育プログラム」2024 年度自己点検評価報告書

2025 年 4 月 24 日

情報教育委員会

1. 自己点検評価実施と結果について

2024 年度よりスタートした「浦和大学データサイエンス・AI 教育プログラム」について、実施状況および達成状況についての自己評価を行い、プログラムが問題なく実施されていることを確認した。

2. プログラム構成科目

	情報リテラシ I, II	データサイエンス入門
こども学科	1 年前期、後期必修	1~4 年次選択科目
学校教育学科	1 年前期、後期必修	1~4 年次選択科目
総合福祉学科	1 年前期、後期必修	1~4 年次選択科目
現代社会学科	1 年前期、後期必修	1~4 年次自由選択科目

3. 修了要件

「情報リテラシ I, II」(2024 年度前後期全学科 1 年生必修科目)を履修していること

「データサイエンス入門」(2024 年度前期 1,2 年生対象)を履修していること

4. 授業の方法並びに実施体制

PC 教室 (ニューメディア室) での講義・演習。定員 42 名とし、これを超える場合には抽選とする。

5. 期待される学修成果

(1) 社会で起きている変化 (第 4 次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会など) についての知識を身に付けることができる。

(2) AI の概要や仕組みを知り、利用方法や注意点についての知識が身に付く。

(3) Excel を用いてデータの可視化や統計処理、データベースの基本的な操作ができるようになる。

6. プログラム改善のための体制、自己点検・評価体制

教育改善のための体制： 情報教育委員会、図書情報センター

自己点検・評価体制： 情報教育委員会

次ページからの表に 2024 年度の評価詳細を記す。

自己点検評価の視点 (学内からの視点)	自己点検・評価体制における意見・結果
プログラムの履修・修得状況	教務課が運用している現行の LMS で、受講生リストおよび当プログラム授業への出席状況・課題提出状況をリアルタイムに把握することが可能である。
学修成果	上記受講生の授業出席状況および課題提出状況は、LMS で把握されており、必要に応じて毎月開催される情報教育委員会へ報告を行った。また教務課が実施した授業アンケートの集計結果を情報教育委員会にて報告し、学修成果の確認と自己点検・評価を行った。この結果をもとに翌年度授業にフィードバックを行なう。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	上記受講生の授業アンケートにおいて、授業への態度、授業への興味・関心、専門知識の取得、さらには授業内容や授業の進め方に関する評点は他科目の評点平均を上回り、また良かった点、悪かった点などの自由記述から、学生が前向きに取り組み授業内容を理解していたことがうかがわれた。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラム専用のページに、情報教育委員会での委員の主な意見や評価について公開するとともに、受講生の自由記述の意見なども掲示し、講義受講の推奨へ利用している。
全学的な履修者数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度より情報副専攻制がスタートし、本プログラムの授業科目「データサイエンス・AI」は、副専攻修了の必修科目となっている他、全国大学実務教育協会「情報処理士」「データサイエンス・AI 実務者パスポート」の資格認定科目となっているので、本科目の履修者数と同時に資格取得者数、副専攻修了者数が連鎖的に上がるように今後全学で取り組んでいく。

自己点検評価の視点 (学外からの視点)	自己点検・評価体制における意見・結果
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年度よりプログラム準拠の授業を開始したため、卒業生はおらず外部からの評価も得られていない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	浦和大学地域連携センターでつながりのある企業や本学が参加している「さいたま市大学コンソーシアム」などを窓口に、協力できる企業や外部団体と AI 利用に関する情報の交換や、授業の演習や研究に利用できる実データについて調査を開始し、相互にメリットのある連携を模索していく予定である。

自己点検評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果
数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生が興味を持つ話題に関する課題を与え、生成 AI によって適切な解答が得られるまでプロンプトの与え方を検討させている。チャットによる解答文の生成だけでなく、画像生成 AI を用いてイラストや画像の出力など、多様な機能を体験させることで「学ぶことの楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	毎年授業での学生アンケートの内容を分析して、特に学生の「わかりやすさ」について、他の科目と比較して理解度が低くならないようチェックし次年度の取組に反映させている。生成 AI の進展は教育現場に大きな影響を与えており、教育における生成 AI 利活用について情報教育委員会で定期的に取り上げている。